令和元年度

学力調査結果等を踏まえた内容別・観点別の分析　５年生

小３４練馬区立石神井小学校

教科	１学期内容別指導の分析	観点別結果の分析	内容別・観点別・学力調査観点別のクロスの分析
国語	・物語文の読解では、叙述をもとに場面の様子を正確に読み取ることはできるが、登場人物の心情を深く考えることに関しては、個人差が大きい。 ・説明文は、内容を読み取ることはできるが、段落構成に着目して段落に役割を考えたり、要旨をまとめたりすることについては、苦手としている児童が多い。 ・漢字学習に意欲的に取り組む児童が多い。しかし、学習した新出漢字を正しく覚えることができている児童は７割程度。中には前学年までの漢字の定着も図れていない児童も見られる。 ・読書については、全体的には読書が好きな児童が多いが、意欲に個人差が大きい。好きな子は、様々なジャンルの本をたくさん読んでいる。今後も読書旬間などの機会に本に親しませるような工夫も考えたい。	・「話す・聞く」については、短い話の内容を理解することはできるが、話の内容が複雑になると正しく聞き取ることができない。「話す」ことについては、個人差が大きく発言を苦手としている児童は、自分の考えを伝えることができていない。 ・文章を書くことに対して、書き始めると自分なりに思いや考えを書こうとするが、内容については工夫などあまり見られない。相手や目的に応じて適切に伝わるように書くことに課題がある。 ・「読む」ことについては、文章全体の意味を正しく理解することはできる。叙述をもとに登場人物の気持ちを考えたり要旨を捉えたりすることは、個人差が大きい。 ・「言語」については、大体は理解しているが十分に定着しているとはいえない。覚えた漢字も日頃の文章の中で使うことが苦手な児童が見られる。	・東京都学力調査の結果では、教科の内容に関する正答率は７０．７％で、東京都の正答率を３％上回っている。全体的に基礎的な内容は身に付いているが個人差が大きい。 ・教科の内容については、全ての項目について東京都の平均を上回っている。「知識・理解（言語）」は、４．５％、「技能（書く）」の項目は、４％、「思考・判断・表現」は、３．２％「読む」は、１．１％上回っている。言語事項については、主述の関係、修飾する言葉についての理解が低いため、文章の中での語句と語句との関係を理解できるようにしたい。 ・関心・意欲・態度の項目は９３．９％と、東京都の平均を０．１％上回っている。書くことに関して、興味をもって自主的に学習に向かう事ができる児童とそうではない児童の差が大きい。
算数	A数と計算 ・小数の除法では、商における小数点のうち忘れや、除数を整数化した場合の被除数の小数点の移動間違いが多い。また、あまりがある場合のあまりの小数点の位置がわからないなど、小数の意味理解が不十分なことによる苦手意識が強く表れる。 B図形 ・与えられた三角形や平行四辺形と合同な図形をかくとき、頂点や辺、角の対応関係に着目できない。コンパスや分度器の扱いについては個人差があり、個別指導が必要。 ・体積の単位とこれまでに学習してきた長さ、面積などの単位間の関係の理解が深まらない。 C変化と関係 ・伴って変わる2つの数量やそれらの関係を表に表すことは比較的容易にできるが、関係式に表すことが難しい。	・「思考・判断・表現」については、上位層は自分で考え、判断し、ノートに書き表したり説明したりできる児童が多くみられる。一方、下位層では、課題を分解した1つずつの問題には答えられるが、それらを組み合わせて総合的に考えたり判断したりする力に欠けている。 ・「技能」については、その単元だけの学習では定着が期待できない。繰り返し計算練習をさせる、コンパスや分度器などの道具は実際に使って経験を積ませるなど、確実な習得を図りたい。 ・「知識・理解」については、３観点の中では一番よい結果が出ている。しかし、知識として持っていることを活用する場面になると、それを生かしきれていない。	・東京都学力調査の結果では、「思考・判断・表現」については3.5ポイント、「技能」については、6.1ポイント、「知識・理解」については6.8ポイント、「合計正答率」は5.5ポイント、東京都を上回ったが、「合計正答率」は65.6％、「思考・判断・表現」は50.8％と低い傾向にある。 ・ある数を1/10にした数の正答率は96.3％と高かった。 ・伴って変わる2つの数量やそれらの関係については、□に数を当てはめて△の数を求めることは90.7％の正答率だったが、2つの数の関係を式で表すことは53.7％と低く、関係式の表し方についての理解が十分でなかった。 ・「商は一の位まで求めて、あまりも出しましょう。」の正答率は47.2％で、わり進めるなどした児童がいて、問題の意味が読み取れず求められている答えを導けない。 ・加減乗除の計算は、学習しているときはできるが、間があくと計算の手順を忘れてしまう児童や、根気よく計算の答えを求めるのが苦手な児童がいる。 ・学年が上がるにつれて学力差が大きくなる教科であることから、上位層、下位層での指導にはより一層の工夫が求められる。 ・身に付いている知識を生かし、考える力や表現する力につなげられるように、低学年のうちから発達段階に応じて取り組む校内体制づくりが不可欠である。

理 科	・天気とその変化 天気の予報を考えることはできているが、その伝える内容が既習事項を生かして相手に伝えることがうまくできていない。 ・植物の発芽 植物の発芽の実験では、理科での様々な経験・体験が不足しているため、実験結果を予想する場面で、いろいろな条件を考えて想像することが苦手である。 ・メダカの誕生 顕微鏡使用時に、使い方や注意を細かく指導しないと上手に使うことができず、観察が不十分となり、理解を深めることができなかった。	・理科全般に対して、興味関心が高く男女関係なく「意欲的に学習に取り組めている。 ・「思考・判断・表現」については、数多く考える場面を設定したり、自分で考える時間をしっかりと取ったうえで他者との意見交換をしたりすることで、自分の考えや意見を見直したり深めたりできるように、意図的に指導する。 ・「技能」については、様々な実験を通して意図的に、実験の方法や場所の整備など繰り返し行うことで、器具に慣れ実験の仕方も身についけられるようにしていきたい。 ・「知識・理解」については、既習事項の定着を図るために、繰り返し学習したり、既習事項を使わなければならない場面を設定したりすることで、徐々に知識や理解を深めていっている。	・東京都学力調査の結果では、教科の内容に関する正答率は５８．４％で、東京都の正答率を上回っている。全体的に基礎的な内容は身に付いているが個人差が大きい。 ・教科の内容については、「知識・理解」は、－１．２％、「技能」の項目は、－０．１％、「思考・判断・表現」は、３．７％となっている。知識・理解については、課題について発想豊かに考えていくことはできているが､知識としての積み重ねをもとに､課題を解決していけるようにしたい。 ・関心・意欲・態度の項目は、東京都の平均を上回っている。興味･関心をもって自主的に学習に向かう事ができる児童とそうではない児童の差が大きい。

令和元年度

学力調査結果等を踏まえた内容別・観点別の分析　６年生

小３４　練馬区立石神井小学校

教科	１学期前半内容別指導の分析	観点別結果の分析	内容別・観点別・学力調査観点別のクロスの分析
国語	・物語文や説明文の読解では、叙述をもとに場面の様子や内容を読み取ることはできるが、深い読み取りは個人差が大きい。説明文については、筆者の意図を的確にとらえ要旨をまとめたりすることについては、苦手としている児童が多い。 ・漢字学習に真面目に取り組む姿は見られる。しかし、学習した漢字を正しく覚えることができている児童は７割程度である。中には前学年までの漢字の定着も図れていない児童も多く見られる。 ・自分の考えをもったり表現したりすることはできるが、話し合いから考えを深めたり、構成を工夫して説得力のある表現をすることについては個人差がある。 ・読書については、全体的には読書が好きな児童が多いが、意欲に個人差が大きい。好きな児童は、様々なジャンルの本をたくさん読んでいる。	・「話す・聞く」については、話の内容が長かったり複雑になったりすると正確に聞き取ることができない。「話す」ことについては、個人差が大きく発言を苦手としている児童は、自分の考えを伝えることができていない。 ・「書く」に対しての意欲は高くはないが、自分なりに思いや考えを表現することはできる。相手や目的に応じ適切に伝わるように書くことに課題がある。 ・「読む」については、文章全体の意味をとらえ理解することはできる。叙述をもとに登場人物の気持ちを考えたり要旨を捉えたりすることは、個人差が大きい。 ・「言語」については、全体的に定着しているとはいえない。語彙量にも個人差があり、覚えた漢字も日頃の文章の中で使うことができていないことが多い。	・全国学力調査の結果では、全体の正答率は６８％で、全国平均を５％、東京都の平均を３％上回っている。 ・国語に関して、各領域、観点のどの項目においても全国平均、東京都の平均を上回っている。 ・教科の内容については、「関心・意欲・態度」は、２％、「話す・聞く能力」は、３％、「書く能力」は４％「読む能力」は５％、「言語についての知識・理解・技能」については４％全国平均を上回っている。 ・選択式の問題の正答率は大変高く、正確に答えることができているが、短答式、記述式は苦手傾向にある。特に記述式の問題の正答率は全国平均を上回っているものの、３１％と正答率が非常に低い。 ・特に正答率が低かった問題は、漢字を正しく使う問題、接続語を使って文を書く問題、自分の考えを理由を明確にして書く問題であった。やはり書く力、言語の力に課題が見られる。
算数	・「円の面積」や「角柱・円柱の体積」の学習では、公式に当てはめて答えを求めることはできたが、既習の図形や立体を応用した複雑な図形や立体については答えを求められない児童が見られた。 ・「分数のかけ算」は比較的よくできていたが、「分数のわり算」になると、計算方法の意味の理解が不十分であったり、約分を忘れてしまったりするなどして、最後まで正しく計算することが困難な児童がいた。 ・「比と比の値」の学習では、基本的な考え方はおおむね理解できていた。しかし、文章問題などでは、比例の考え方を使って解くとよいのだということがよくわかっていない様子も見られた。	・分数のかけ算やわり算、面積・体積などの「技能」では、基本的な力に個人差がある。また、ケアレスミスも多い。計算の技能については、確実に身に付いてきているが、反復練習をして定着を図る必要がある。 ・「知識・理解」については、基本的な内容の理解はできているが、その理解した知識を問題解決へとつなげない場合も見られる。 ・基本的な技能、思考力が身についている児童は多いが、問題解決の方法を考えられなかったり、文章問題や発展問題などになるとつまずいたり児童も見られる。「数学的な考え方」については全体的に課題である。	・全国学力調査の結果では、全体の正答率は７３％で、全国平均を７％、東京都の平均を３％上回っている。 ・算数に関して、各領域、観点のどの項目においても全国平均、東京都の平均を上回っている。 ・教科の内容については、「数学的な考え方」は８％、「技能」は６％「知識・理解」は４％全国平均を上回っている。 ・選択式、短答式の問題の正答率は８０％と高いが、記述式は全国平均は上回っているものの、正答率が５６％と非常に低く全体的に苦手傾向にある。 ・特に正答率が低かった問題は、除法の問題、加法と乗法の混合した整数と少数の計算、答えの求め方の説明を記述で書く問題であった。除法の計算の定着、計算の過程を理解する必要がある。